

# 松岡修造さんら招き日本テニス界展望

専修大学スポーツ研究所(佐藤満所長)の公開シンポジウム「挑戦 君の魂に火をつける」が12月18日、生田キャンパスで行われた。元プロテニス選手で日本テニス協会強化育成本部副本部長、「修

造チャレンジ」代表の松岡修造さんら豪華ゲストを迎え、日本テニスの現在地と今後の方向性について議論が交わされた。



身ぶりを交え、次代を担う学生に熱いエールを送った松岡さん

講演とシンポジウムの二部制で実施された。第一部では

長年日本テニス界の育成・強化に携わり、世界で活躍する錦織圭選手らのメンタルコーチとして「修造チャレンジ」に参加してきたスポーツ研究所顧問の佐藤雅幸経済学部教授が基調講演(最終講義)を行い、40年以上に及ぶ本学での教育・研究活動、女子テニス部監督としての歩みなどを振り返った。



多くの学生、教職員らが来場した

第二部では、佐藤教授に加え、松岡さん、男子ジュニア14歳以下監督の櫻井準人さん、元テニスマガジン編集長の牧野正さんが登壇。フリーアナウンサーの足立清紀さんの進行で、「育成」と「挑戦」をキーワードに多角的な意見が交わされた。挑戦者に必要なものとして、松岡さんが「自立し、決断し、自分で表現することが必要。リスクや恐怖もあるが、それに向き合うことが挑戦だ」と語り、佐藤教授は「一番駄目なのは何もしないこと。失敗は成長の糧だ」と応じた。最後に佐藤教授は、「専大

## 経済・佐藤雅幸教授が基調講演

参加した学生は実際にスマートフォンを使っていることがあるので、確認してほしいと話した。

## スマホで確定申告体験講座

確定申告を前に、学生に税金について考えてももらおうと、1月15日、神田キャンパスで体験講座が開催された。学生部主催。

確認することがあるので、確認してほしいと話した。参加した学生は実際にスマートフォンを使って、確定申告のやり方を体験。源泉徴収票をスマホのカメラで読み取るだけで所得金額や還付金額が自動入力されることを確認した。そのほか、「年収の壁」やマイナンバー

ル連携、国税専門官の仕事の説明などもあった。参加した法学部3年次生は、「去年まではバイト先から源泉徴収票をもらっても、どうしたらいいかわからず放置していた。今回、入力を体験して簡単だと分かったので、今年は必ず申告する」と話していた。講座はオンラインでも配信された。



スマホを使った確定申告を体験

高校生が本学に通い、それぞれの興味や関心に合わせた講義を聴講する高大連携聴講生の修了式が1月24日、専修大学サテ

大田桜台高、和洋九段女子高、専大附属高、専大松戸高の1〜3年生が参加。生徒たちは「憲法入門」「ビジネスプランニング」「宇宙地球科学」といった講義を大学生とともに受講した。

高大連携協会の砂原由和座長、佐藤由美副座長を交えた懇談会では、「大学の雰囲気を感じたことで、目標が明確になり、進路を決めるきっかけになった」「高校までとは異なる授業形式で楽しかった」などの感想が上がった。

高大連携協会の砂原由和座長、佐藤由美副座長を交えた懇談会では、「大学の雰囲気を感じたことで、目標が明確になり、進路を決めるきっかけになった」「高校までとは異なる授業形式で楽しかった」などの感想が上がった。

高大連携協会の砂原由和座長、佐藤由美副座長を交えた懇談会では、「大学の雰囲気を感じたことで、目標が明確になり、進路を決めるきっかけになった」「高校までとは異なる授業形式で楽しかった」などの感想が上がった。

## 高大連携聴講生 21人に修了証書

就職日より

キャリア形成支援課窓口にて必ず提出してください。あわせて、「in Campus」から「就職アンケート」への回答にもご協力をお願いします。

キャリア形成支援課窓口にて必ず提出してください。あわせて、「in Campus」から「就職アンケート」への回答にもご協力をお願いします。

キャリア形成支援課窓口にて必ず提出してください。あわせて、「in Campus」から「就職アンケート」への回答にもご協力をお願いします。

## ロマンスカーミュージアム

### 文・平井ゼミ企画立案 音声で沿線の魅力紹介

小田急電鉄の鉄道博物館「ロマンスカーミュージアム」(神奈川県海老名市)で、文学部・平井信太郎ゼミが企画立案した音声コンテンツが採用され、1月31日から利用開始された。

平井特任教授(左)とゼミ生たち



ゼミは2025年度、小田急グループの広告会社・ものづくりと連携し、ロマンスカーミュージアムのプロモーションに取り組んだ。後期のワークショップでは、ゼミ生が提案したアイデアのうち、音声コンテンツの企画が採用され、実際の台本作業を行った。

下北沢を担当した3年次生は「サブカル発信地である下北沢ならではの魅力を伝えながらも、子どもたちの目を意識して考えた」と話す。4年次生は「クライアントに向けて企画、提案するという作業は初めてで勉強になった。ゼミで取り組んだ成果が形になりうれしい」と語った。

## ベトナム戦争が与えた影響解説



アメリカ研究者の生井氏が講演した

### 人文科学研究 公開講演会

人文科学研究(田中正敬所長)の公開講演会「アメリカのいちばん長い戦争」が1月24日、神田キャンパスで行われた。立教大学アメリカ研究所所員の生井英考さんを講師に招き、ベトナム戦争の記憶が現在のアメリカ社会にいかにつながっているかを考察した。生井さんは「ジャングル・クルーズにうってつけの日」などの著書で知られるアメリカ研究者。講演では、戦没者慰霊碑の建設を巡る対立などを説明し、ベトナム戦争は、さまざまな形で「遺恨」を残し、それが現在の政治不信、民兵組織の乱立、分断の流れにつながっていると話した。

生井さんの講演を受けて、文学部の渡邊真理子教授が「PTSDという概念が社会全体に認知され、帰還兵による回想録文学の隆盛につながった」と解説。そのうえでアメリカ全体を覆っている「虚言の病」が戦争の記憶と深く関係していることを、小説や映画を通して指摘した。

### 就職日より

キャリア形成支援課窓口にて必ず提出してください。あわせて、「in Campus」から「就職アンケート」への回答にもご協力をお願いします。

キャリア形成支援課窓口にて必ず提出してください。あわせて、「in Campus」から「就職アンケート」への回答にもご協力をお願いします。

キャリア形成支援課窓口にて必ず提出してください。あわせて、「in Campus」から「就職アンケート」への回答にもご協力をお願いします。

キャリア形成支援課窓口にて必ず提出してください。あわせて、「in Campus」から「就職アンケート」への回答にもご協力をお願いします。